

令和3年度岐阜県青少年美術展青年部の選定評

絵画	<p>作品数は減少したが、出品作品は充実していた。作者のテーマ性が明確で、構図や表現に工夫が見られるものが多数あった。油彩表現による作品も多く、その特性を活かした魅力的な作品が多数あった。一方、全体の表現力や完成度にレベルの差があった。今後も、自己や社会に目を向け、絵画表現を追求して欲しい。</p>
デザイン	<p>現代の生活の中で、自分を見つめ直す機会が増えたのか、自身としっかり向き合い、明るい未来に向かうような作品が目立った。高校生らしい視点で描かれており、何れも完成度が高い。従来からある細密画やリアル表現、イラストレーションに加え、CGによる作品も増えている。今後はCGならではの表現力にも期待したい。</p>
立体造形	<p>例年になく立体部門の応募点数が少なく、小さい作品が多い。これは、教育の場でもコロナの影響で活動制限が出ており、じっくりと立体作品に向かい合う時間がないことが見えてくる。作品の傾向としては、空想の生き物や人体と生物を組み合わせた作品など、細部にまでこだわって表現し、若い発想力が引き出された作品である。</p>
書道	<p>応募点数が2割程減ったものの、作品の質は下がらなかった。地道な練習の跡が紙面から滲み出ているものが、上位入賞を果たしたようだ。作品の傾向としては、例年どおり漢字の多字数作品が多くを占めたが、仮名の細字や、漢字仮名交じり書の割合がやや増え、バラエティに富んだ理想的な作品構成となった。</p>
写真	<p>作品数が一昨年と比較して半減した。来年はより多くの生徒が出席して欲しい。質的には、突出した力を持った作品が少なかった。コロナ禍の今だからこそ、元気の出る写真を撮ってほしい。世界には被写体となる題材がたくさんある。ネットなどを利用して、情報収集をして、是非新しい作品を作り出すことに挑んでもらいたい。</p>